



## 信号機はいつどうしてできたの

日本では、鉄道用の信号機が1872年に

信号機には、鉄道用のものと道路用のものがあります。

鉄道用のものは、電車や列車が安全に運転できるために、作られたものです。列車の速度がおそく、運転する数が少ない時代には、信号機は、事故を前もって防ぐためのものとして、設置されました。

列車の速度が速くなり、運転する数が多くなってくると、列車を決められた速さで、順調に運転することが、必要になってきました。

1872年に、日本で最初に鉄道が開通したとき、相図柱という、腕木式信号機が使われました。その後、1904年の甲武鉄道で、最初の円板式自動閉塞信号機が使われ、それから色灯式自動信号機、停止信号の情報を列車に伝える、自動列車停止装置（ATS）や、運転の速度を自動的に決める、自動列車制御装置など、信号機を中心にした信号保安装置ができました。

日本では、道路用の信号機が昭和の初めに

道路用の信号機は、道路の交差点などで、自動車、自転車、通行人などの通行を、決めるための装置です。この信号機にしたがって、自動車、自転車、通行人などが、安全に通行することができます。

道路信号機は、初めは手で動かす、信号板方式でしたが、昭和の初めに今のような電気式信号機が、使われるようになりました。（監修・青木 国夫）

